

木材需給動向について (四国地区)

2023年1月
林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>
（QRコードからもアクセスできます。）



さらに・・・

林産物に関するマンスリーレポート「モクレポ」
木材・木材製品、特用林産に関する最新の統計
データや、林野庁の施策に関するトピックス、セ
ミナー・イベントの情報などを取りまとめ、毎月
中旬に更新しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei/monthlyreport.html>
（QRコードからもアクセスできます。）



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（四国地区）

ウ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・四国地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

(1) 全国の住宅着工戸数

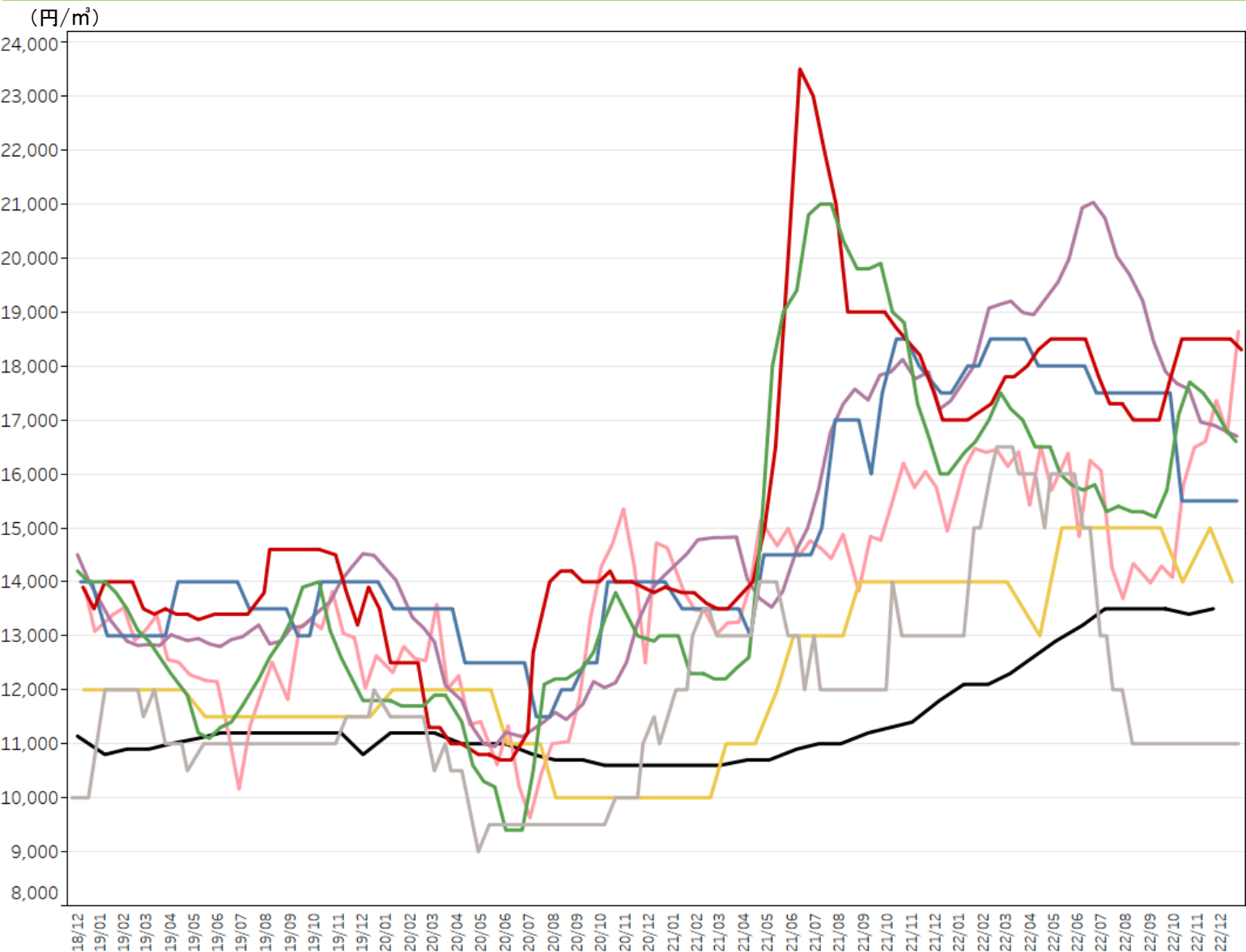
(2) 四国地区の住宅着工戸数

4 木材輸出額

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 2021年4月以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇し、その後一部の地域で下落したが、全般的には、2021年3月以前と比較すると高い水準で推移。
- 直近のスギ原木価格は、11,000円~18,640円/㎡となっている。



(単位：円/㎡)

都道府県	2022年直近※	前年同期	前年同期比
北海道	13,500	11,400	118%
秋田県	16,700	17,350	96%
栃木県	18,640	14,940	125%
長野県	14,000	14,000	100%
岡山県	11,000	13,000	85%
高知県	15,500	17,500	89%
熊本県	18,300	17,000	108%
宮崎県	16,600	16,000	104%

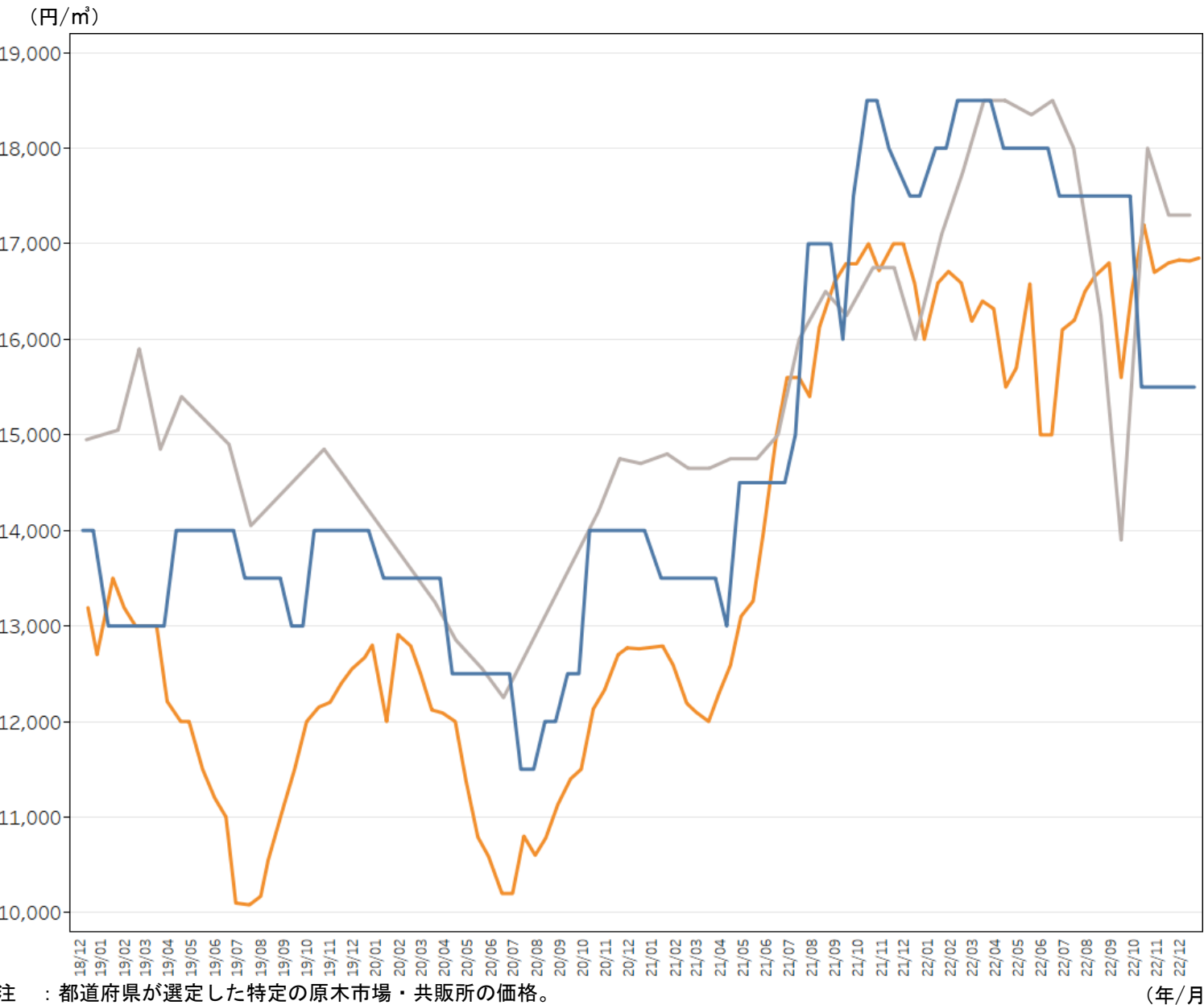
※北海道については11月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については12月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ（四国地区） 径24cm程度、3.65～4.0m（2018年12月～）

- 2021年春以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇。
- 直近のスギ原木価格は、15,500円～17,300円/㎡となっている。



(単位：円/㎡)

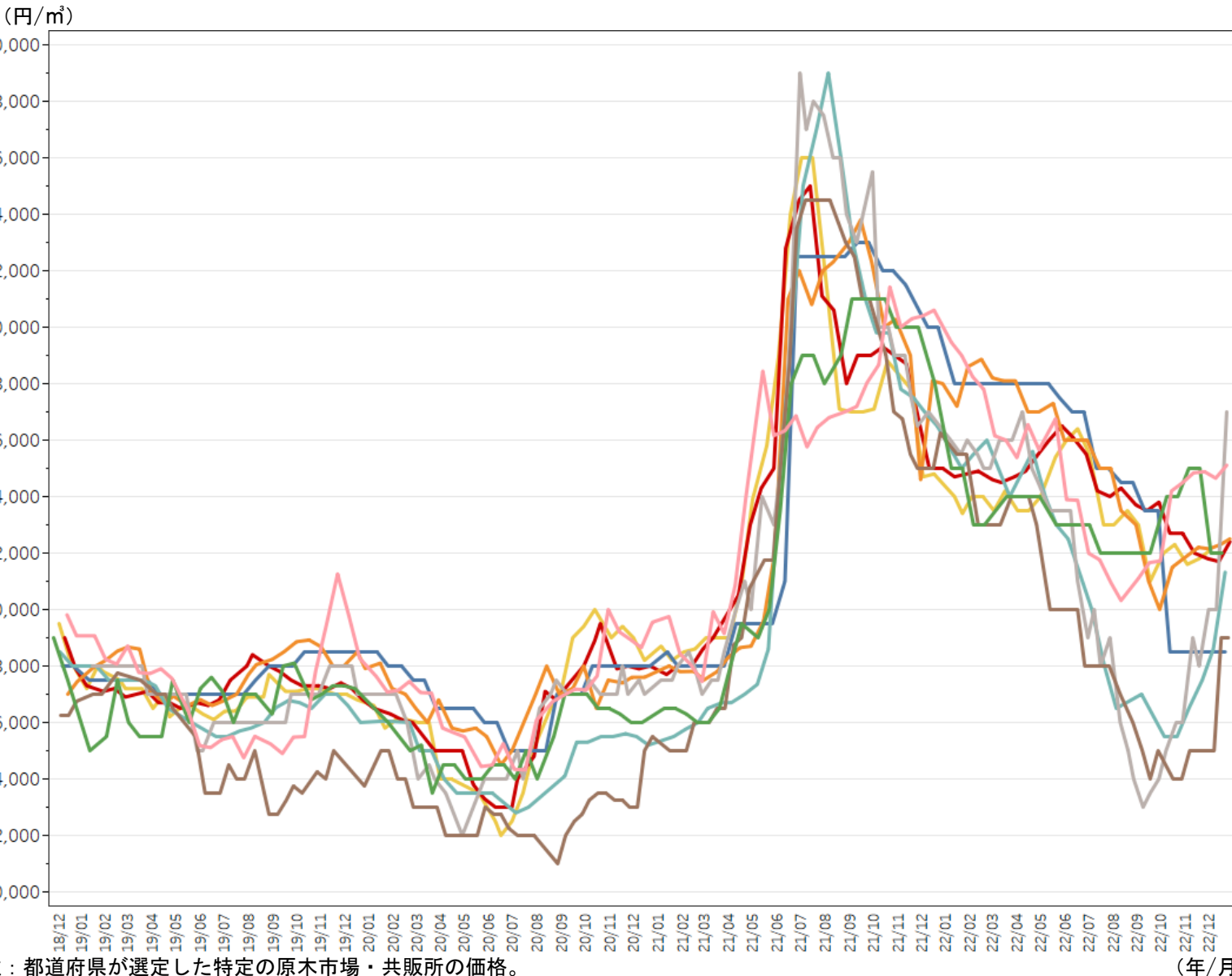
都道府県	2022年直近※	前年同期	前年同期比
徳島県	17,300	16,000	108%
愛媛県	16,850	16,000	105%
高知県	15,500	17,500	89%

※各県12月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
 資料：林野庁木材産業課調べ

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ヒノキにおいてもスギと同様に、2021年4月以降、価格が大きく上昇。その後下落傾向に転じているが、2021年3月以前と比較すると全般的に高い水準で推移。
- 直近のヒノキ原木価格は、18,500円～27,000円/m³となっている。



(単位：円/m³)

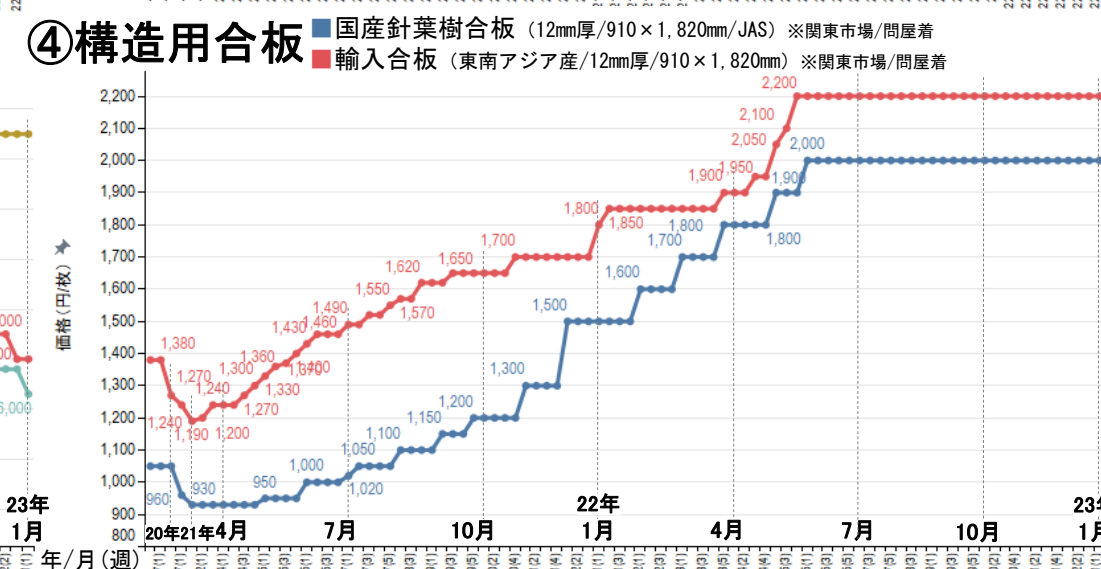
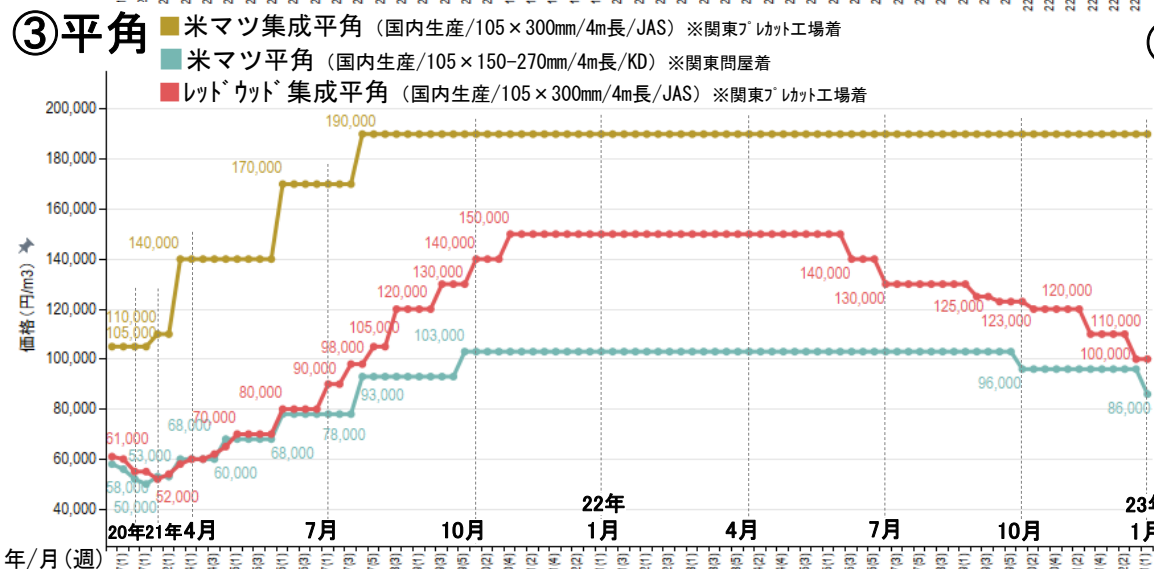
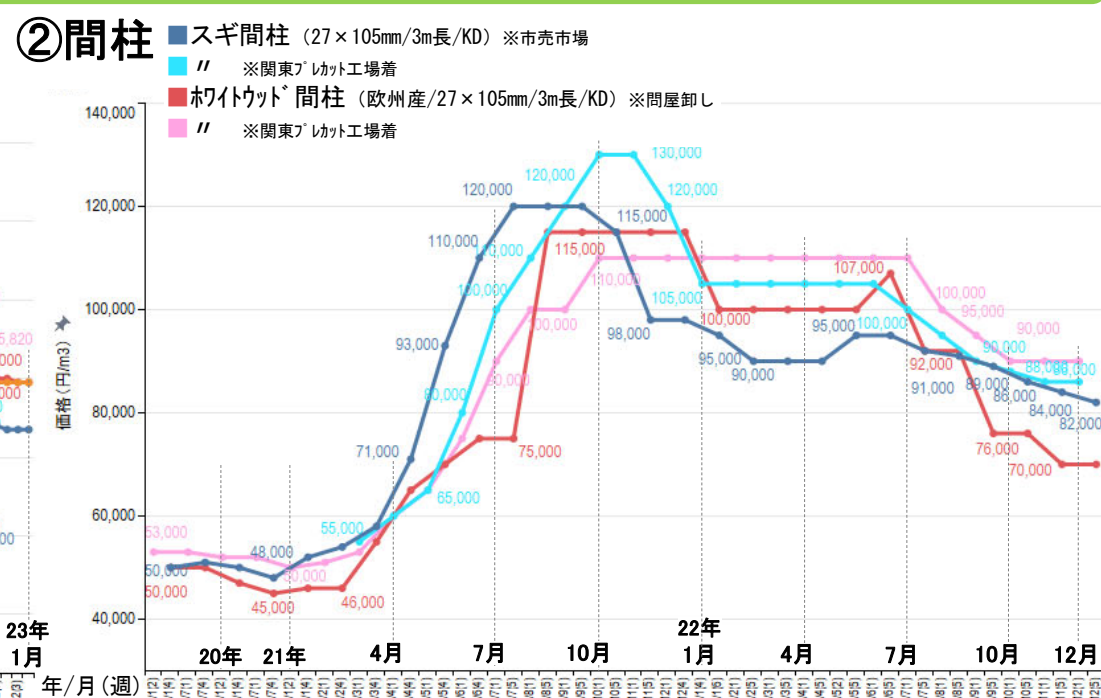
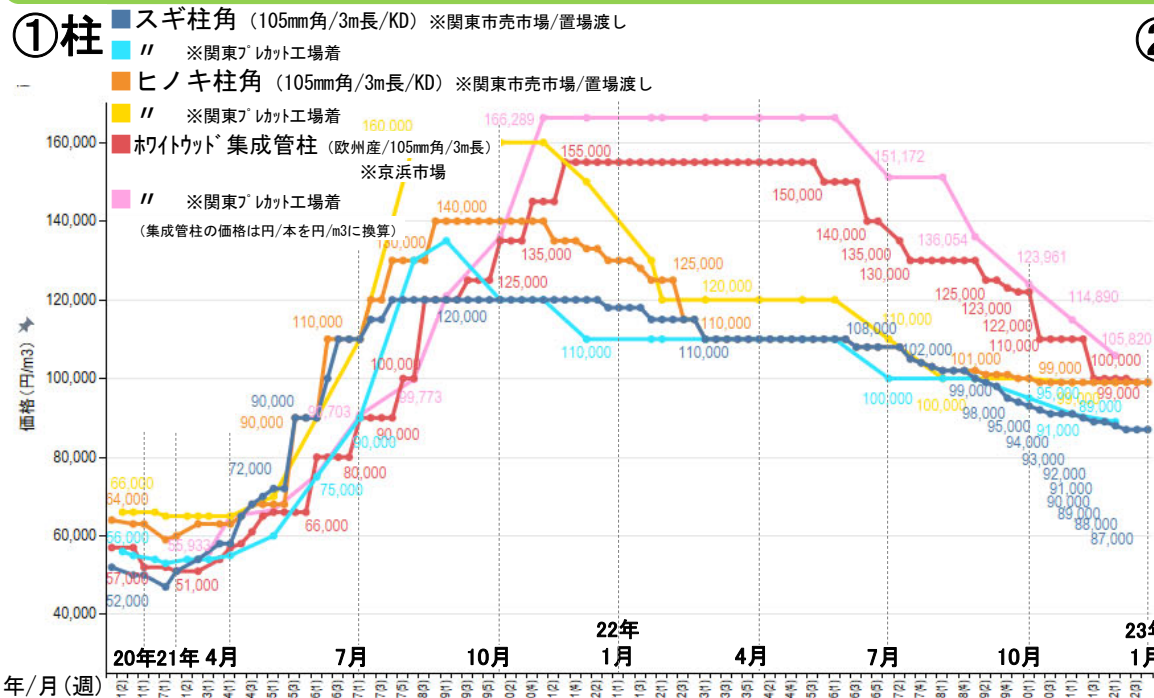
都道府県	2022年直近※	前年同期	前年同期比
栃木県	25,110	30,600	82%
静岡県	22,000	28,000	79%
兵庫県	19,000	26,250	72%
岡山県	27,000	27,000	100%
広島県	21,320	26,500	80%
愛媛県	22,500	28,000	80%
高知県	18,500	30,000	62%
熊本県	22,400	25,000	90%
大分県	22,100	27,800	79%

※各県12月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格

- 令和3年(2021年)は、世界的な木材需要の高まり等により輸入材製品価格が高騰し、代替需要により国産材製品価格も上昇。令和4年(2022年)に入っても、製材は高値圏で推移、合板は上昇後高止まりで推移。

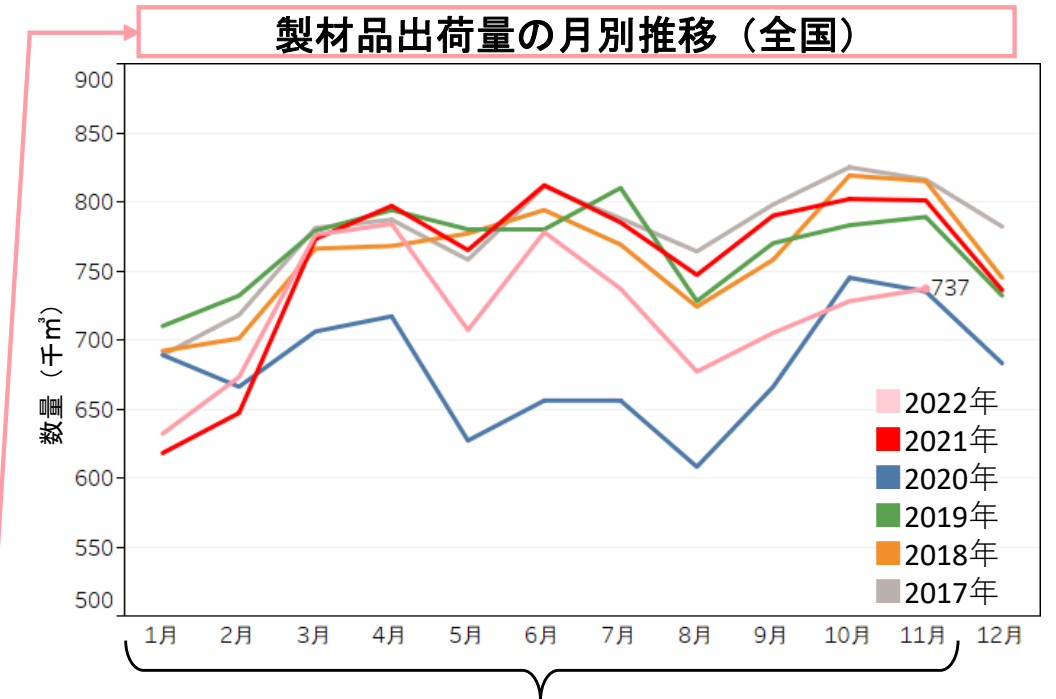
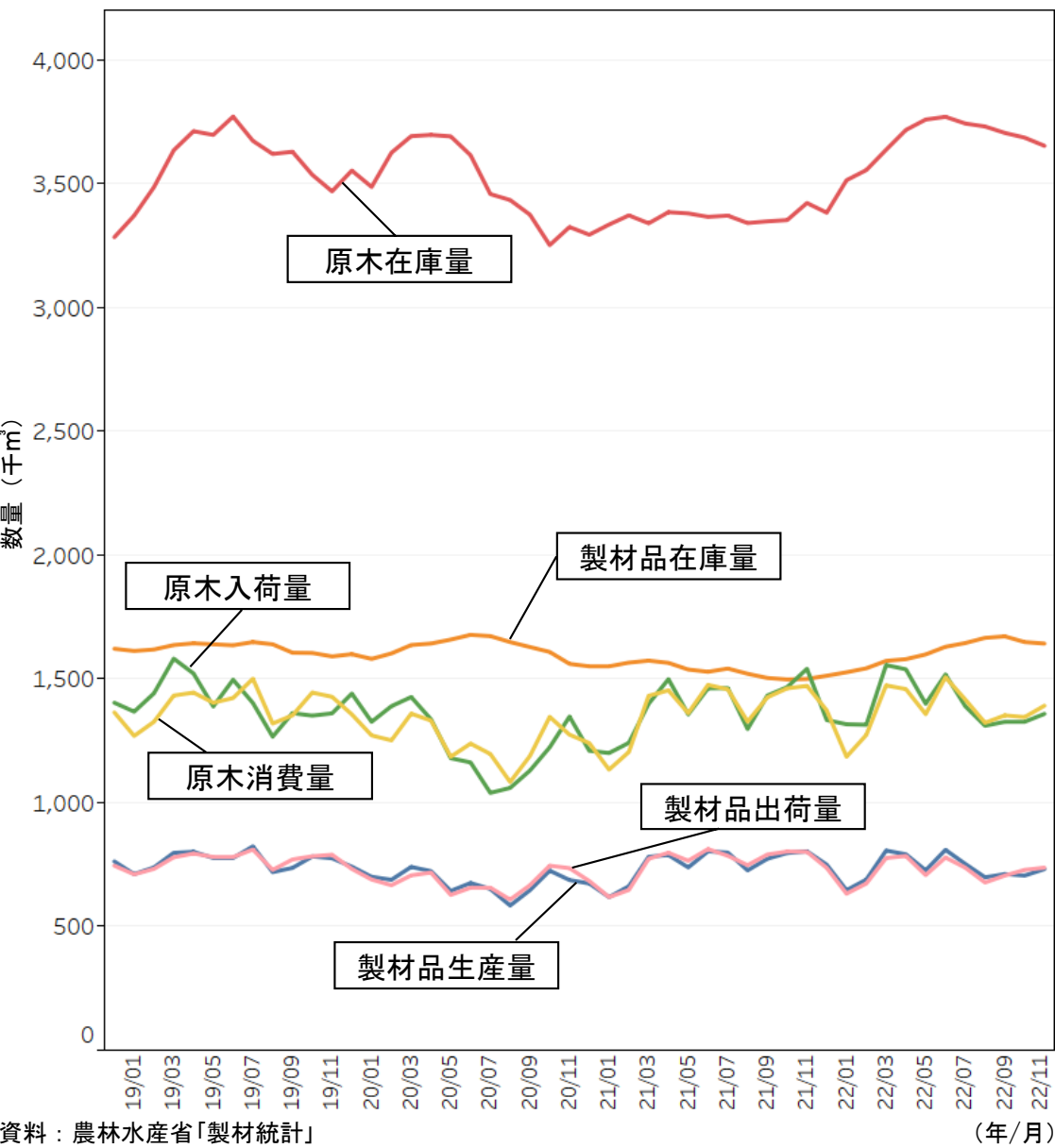


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- 2022年1～11月の原木の入荷量は15,348千m³ (2019年比99%)。
- 同様に製材品の出荷量は7,934千m³ (2019年比94%)。

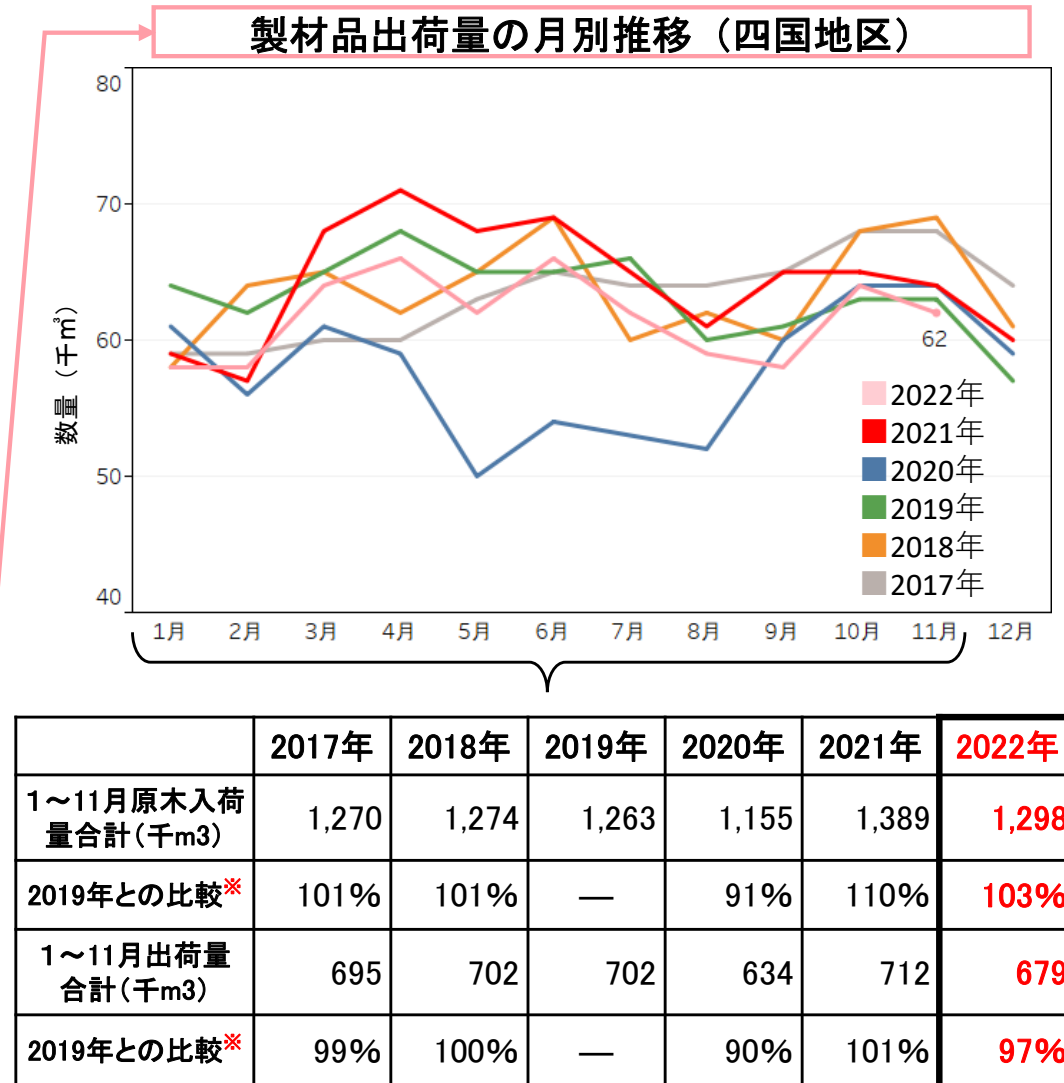
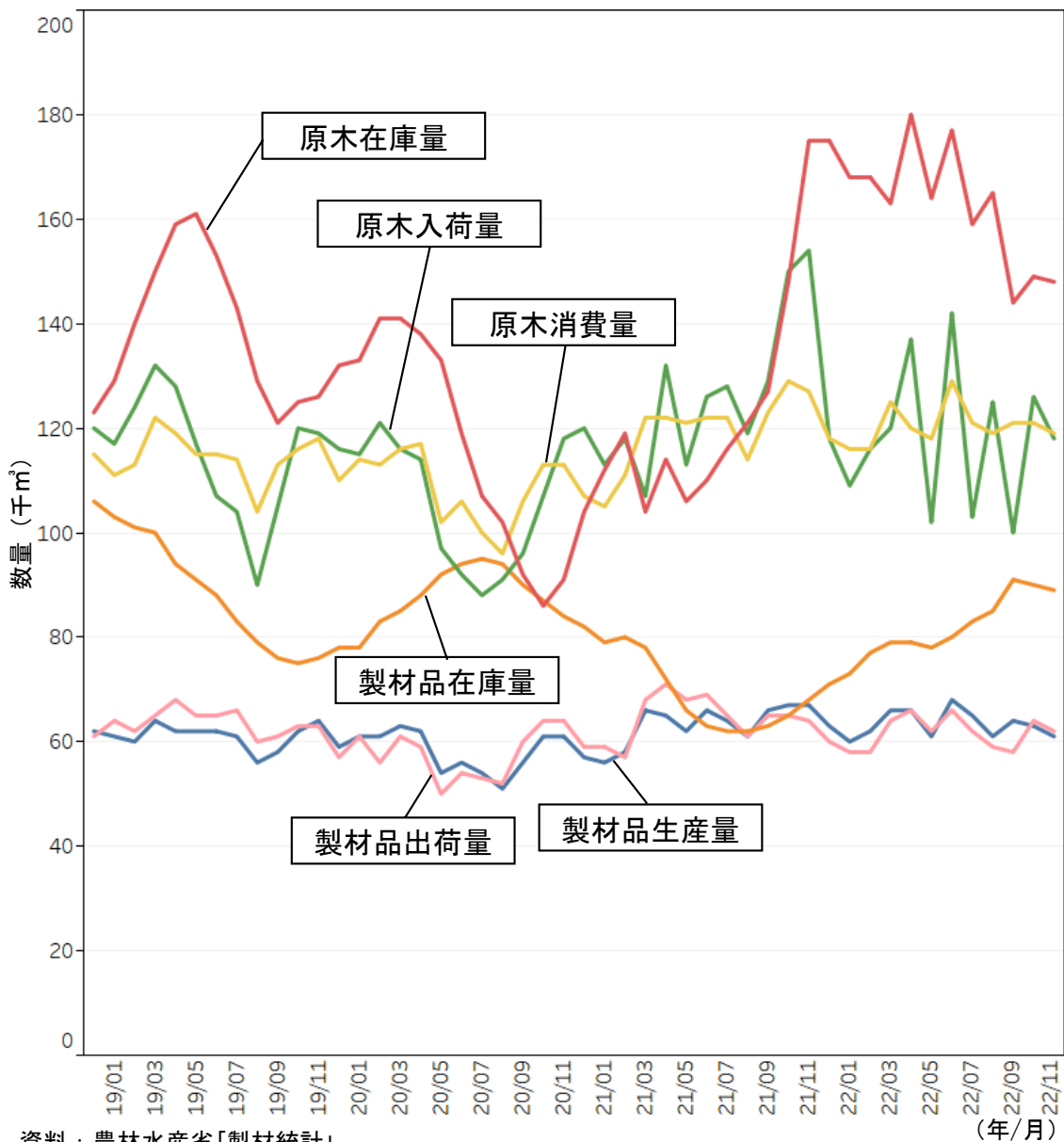


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～11月原木入荷量合計(千m3)	15,114	15,276	15,534	13,615	15,352	15,348
2019年との比較*	97%	98%	—	88%	99%	99%
1～11月出荷量合計(千m3)	8,535	8,383	8,455	7,471	8,337	7,934
2019年との比較*	101%	99%	—	88%	99%	94%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

(1) 製材（四国地区）

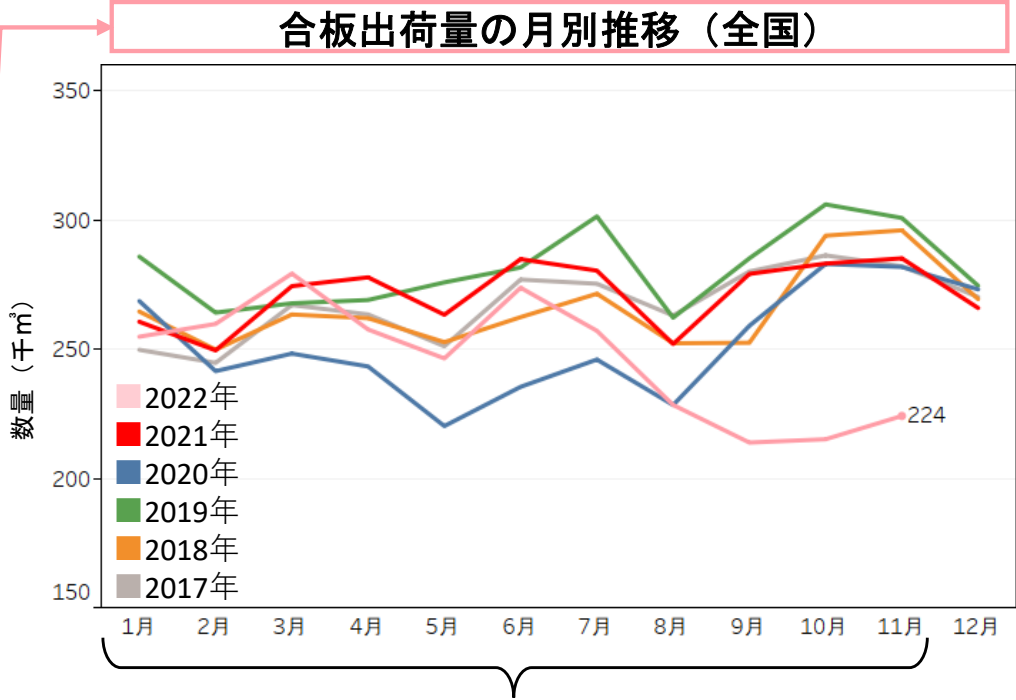
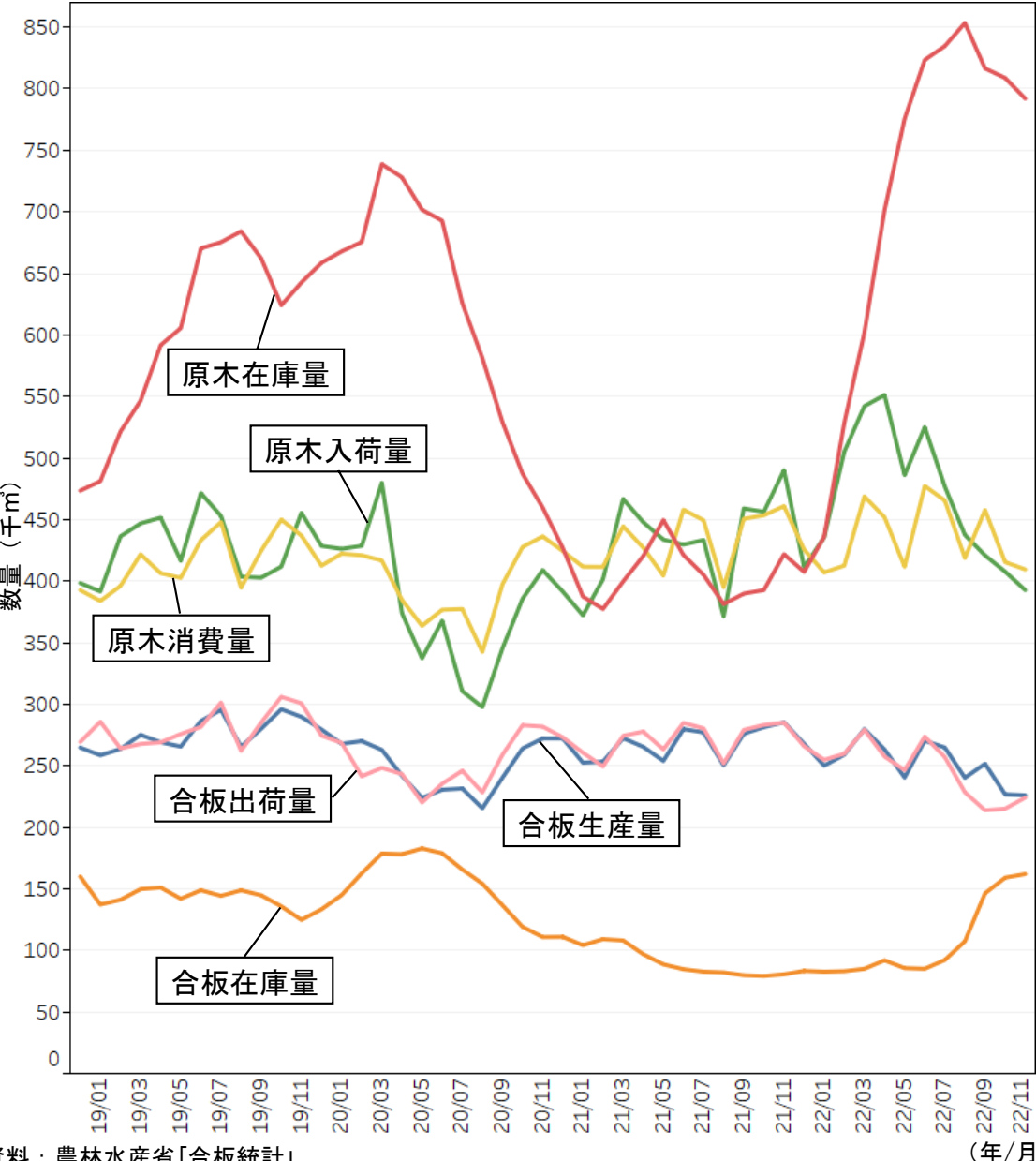
- 2022年 1～11月の原木の入荷量は1,298千m³（2019年比103%）。
- 同様に製材品の出荷量は679千m³（2019年比97%）。



※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

(2) 合板 (全国)

- 2022年 1～11月の原木の入荷量は5,181千m³ (2019年比109%)。
- 同様に合板の出荷量は2,710千m³ (2019年比87%)。

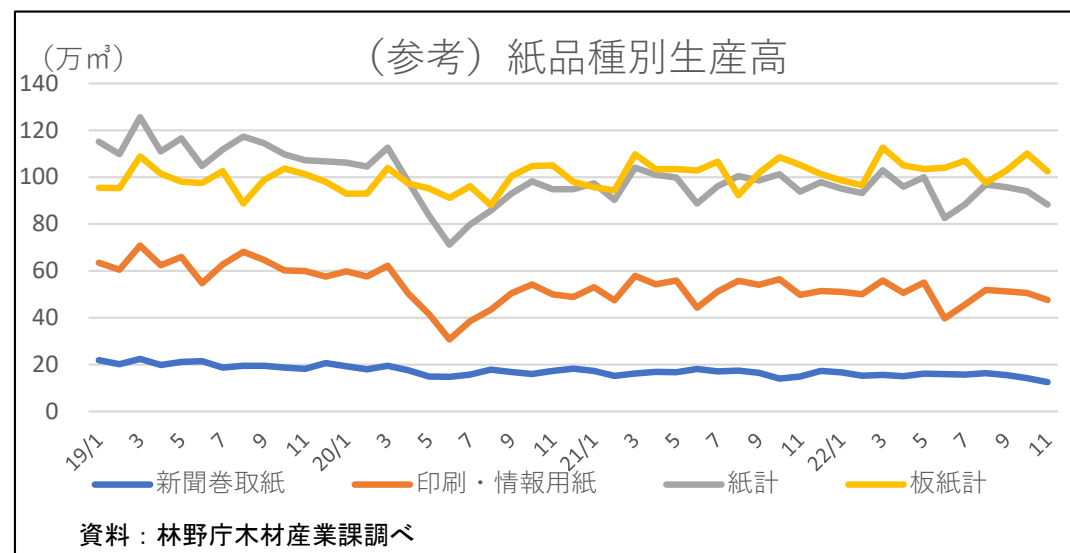
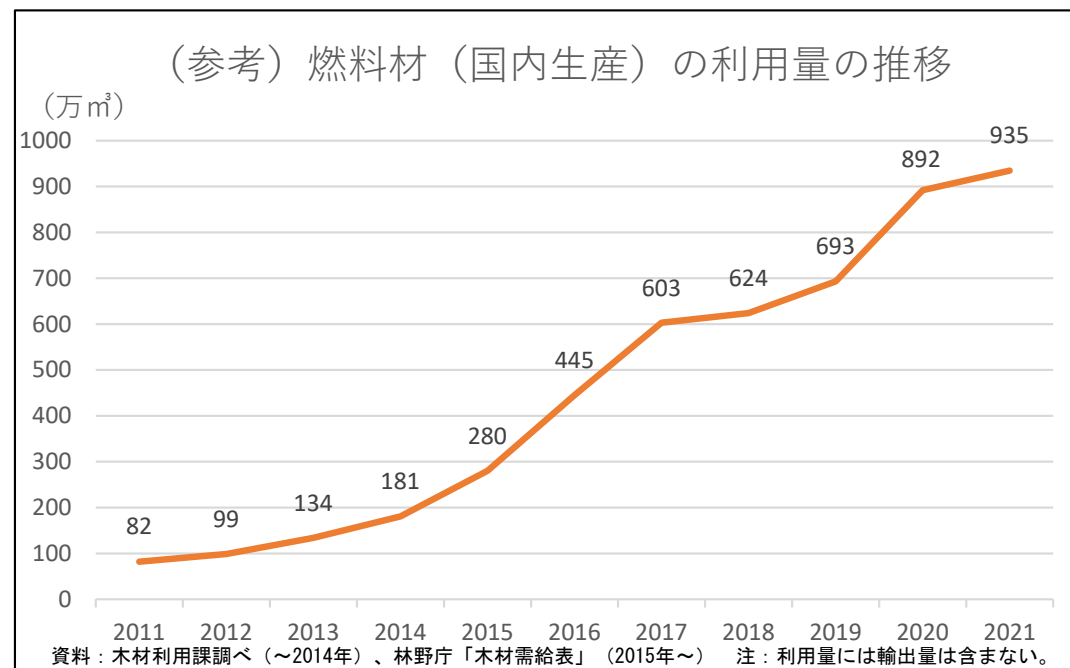
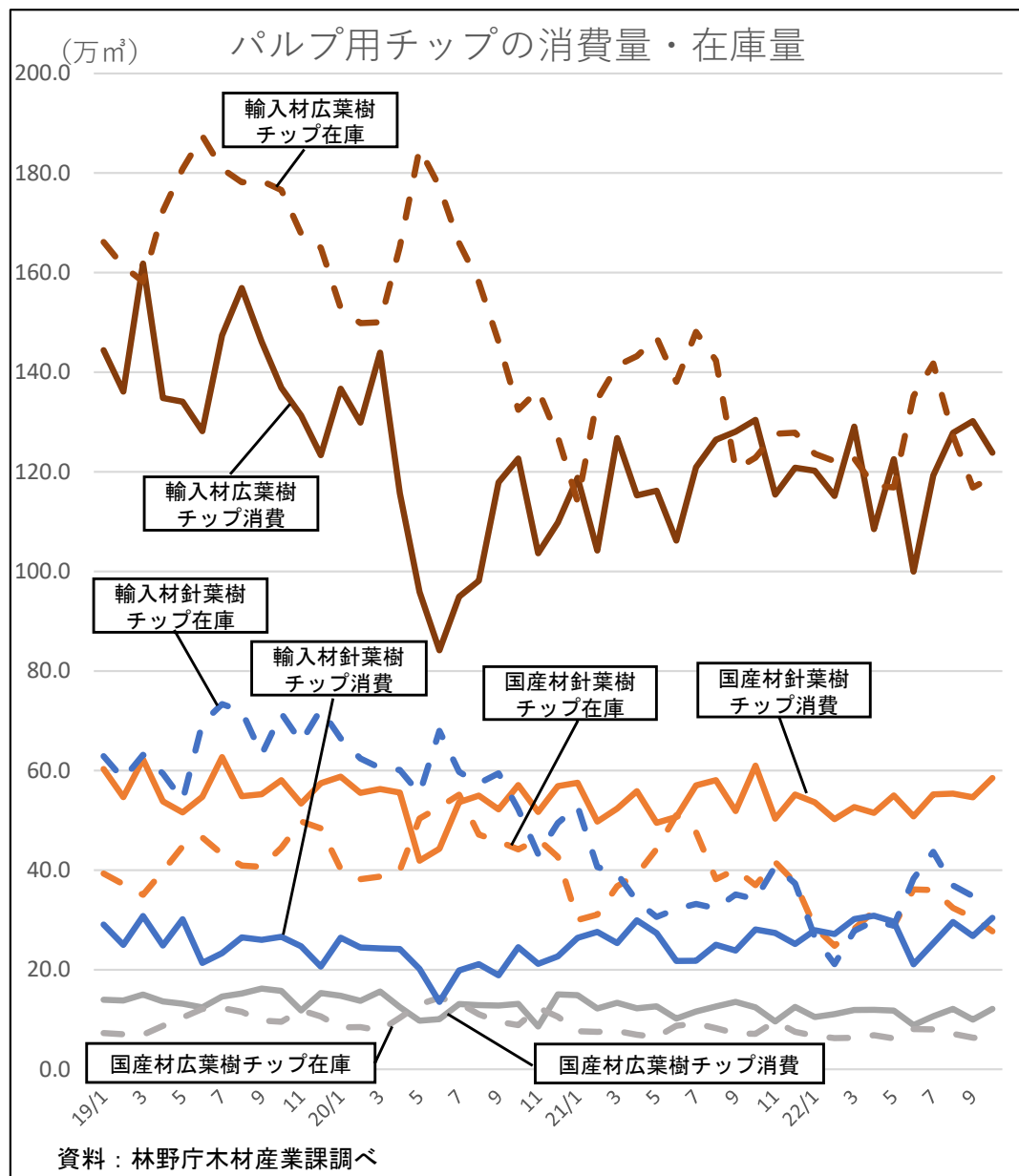


	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1～11月原木入荷量合計(千m3)	4,220	4,532	4,741	4,162	4,762	5,181
2019年との比較※	89%	96%	—	88%	100%	109%
1～11月出荷量合計(千m3)	2,939	2,920	3,099	2,755	2,990	2,710
2019年との比較※	95%	94%	—	89%	96%	87%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

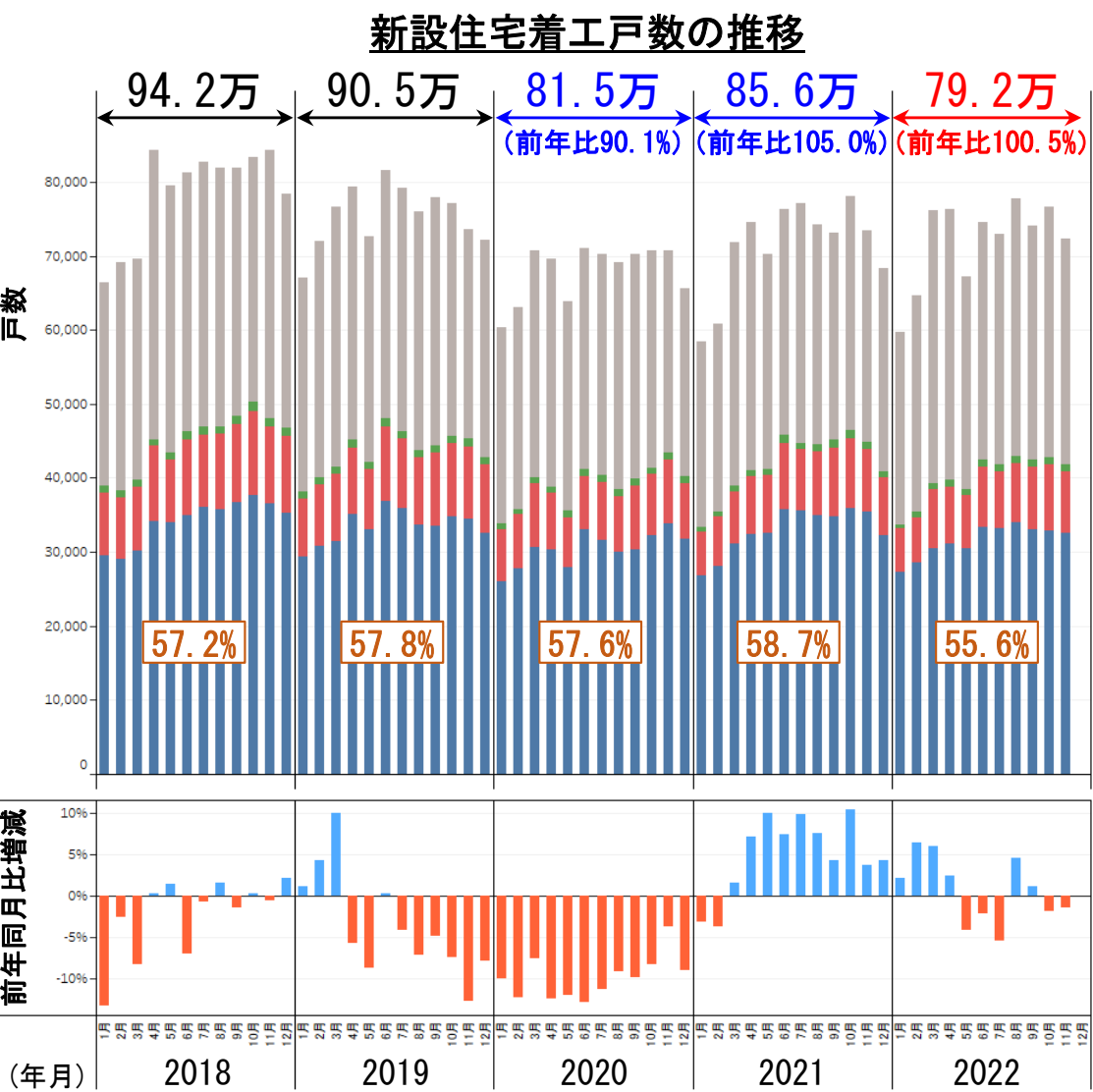
(3) チップ（全国）

- パルプ用チップの消費について、輸入広葉樹チップの消費量は2020年4月から6月まで激減した。その後は回復傾向。国産針葉樹チップの消費量は、2020年5月に大きく減少したが、その後回復した。
- 燃料材（国内生産）の利用量は、発電利用を中心に増加（過去10年間で約11倍）。

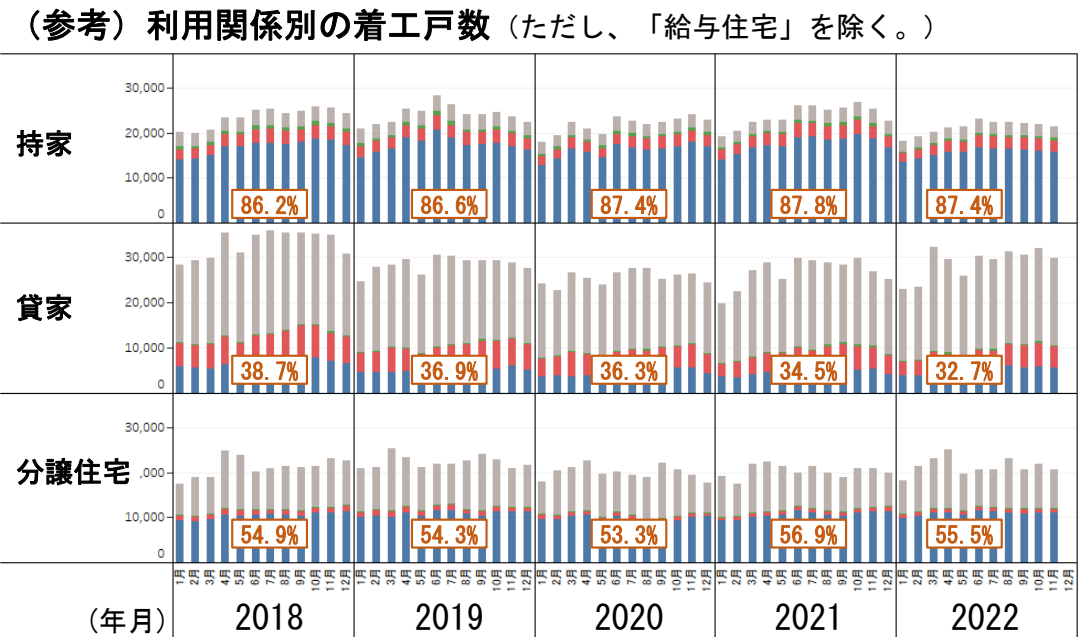


3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (2018年1月～2022年11月)

- 2021年の新設住宅着工戸数は、85.6万戸（前年比105.0%）、このうち木造住宅は50.2万戸（同107.0%）となり、2020年からは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の水準は下回った。
- 2022年1～11月の新設住宅着工戸数は、79.2万戸（前年同期比100.5%）、このうち木造住宅は44.1万戸（同95.5%）。



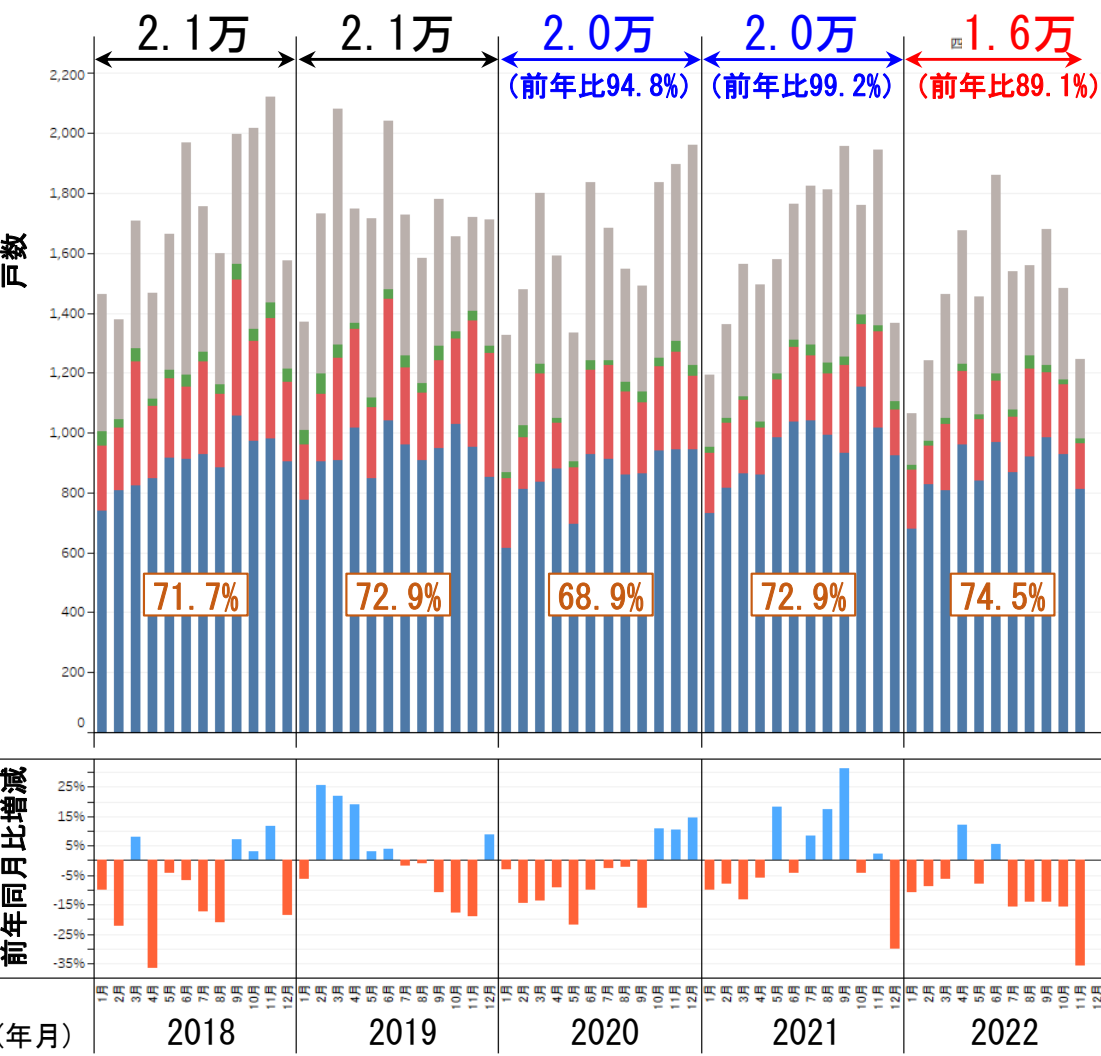
構造別の着工戸数	2022年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	792,280	788,091	100.5%	749,697	105.7%
■ 非木造	351,775	326,621	107.7%	320,609	109.7%
木造	440,505	461,470	95.5%	429,088	102.7%
■ 木造プレハブ	9,309	9,685	96.1%	9,918	93.9%
■ 2×4	84,111	88,202	95.4%	85,441	98.4%
■ 在来軸組	347,085	363,583	95.5%	333,729	104.0%
□ 木造率	55.6%	58.6%		57.2%	



(2) 四国地区の住宅着工戸数（2018年1月～2022年11月）

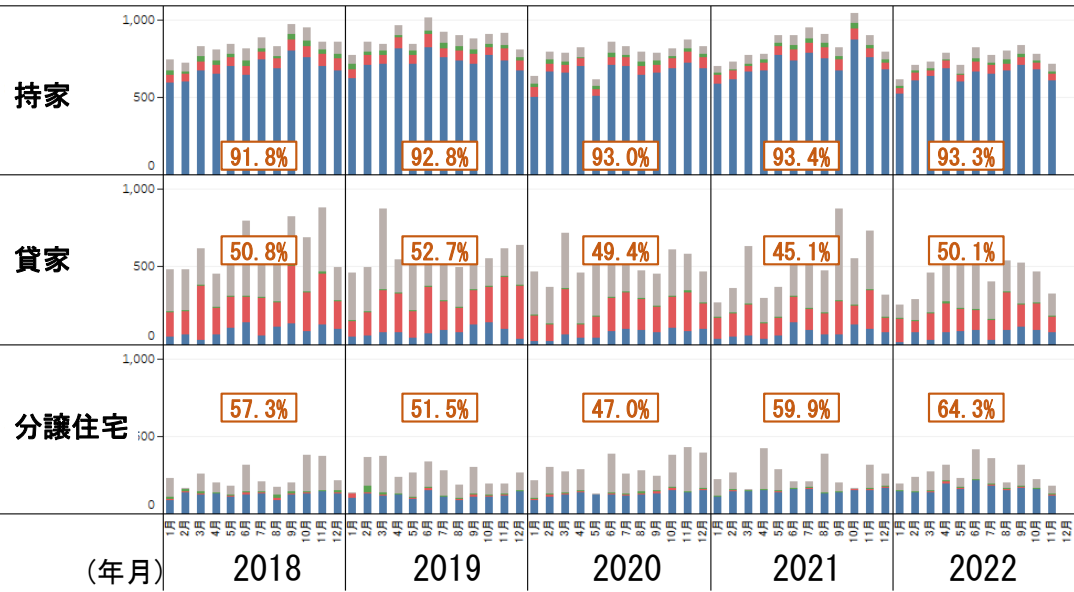
- 2021年の新設住宅着工戸数は、2.0万戸（前年比99.2%）、このうち木造住宅は1.4万戸（同104.9%）。
- 2022年1～11月の新設住宅着工戸数は、1.6万戸（前年同期比89.1%）、このうち木造住宅は1.2万戸（同91.7%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2022年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	16,261	18,255	89.1%	17,827	91.2%
■ 非木造	4,148	5,051	82.1%	5,411	76.7%
木造	12,113	13,204	91.7%	12,416	97.6%
■ 木造プレハブ	232	269	86.2%	309	75.1%
■ 2×4	2,288	2,509	91.2%	2,817	81.2%
■ 在来軸組	9,593	10,426	92.0%	9,290	103.3%
□ 木造率	74.5%	72.3%		69.6%	

(参考) 利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）

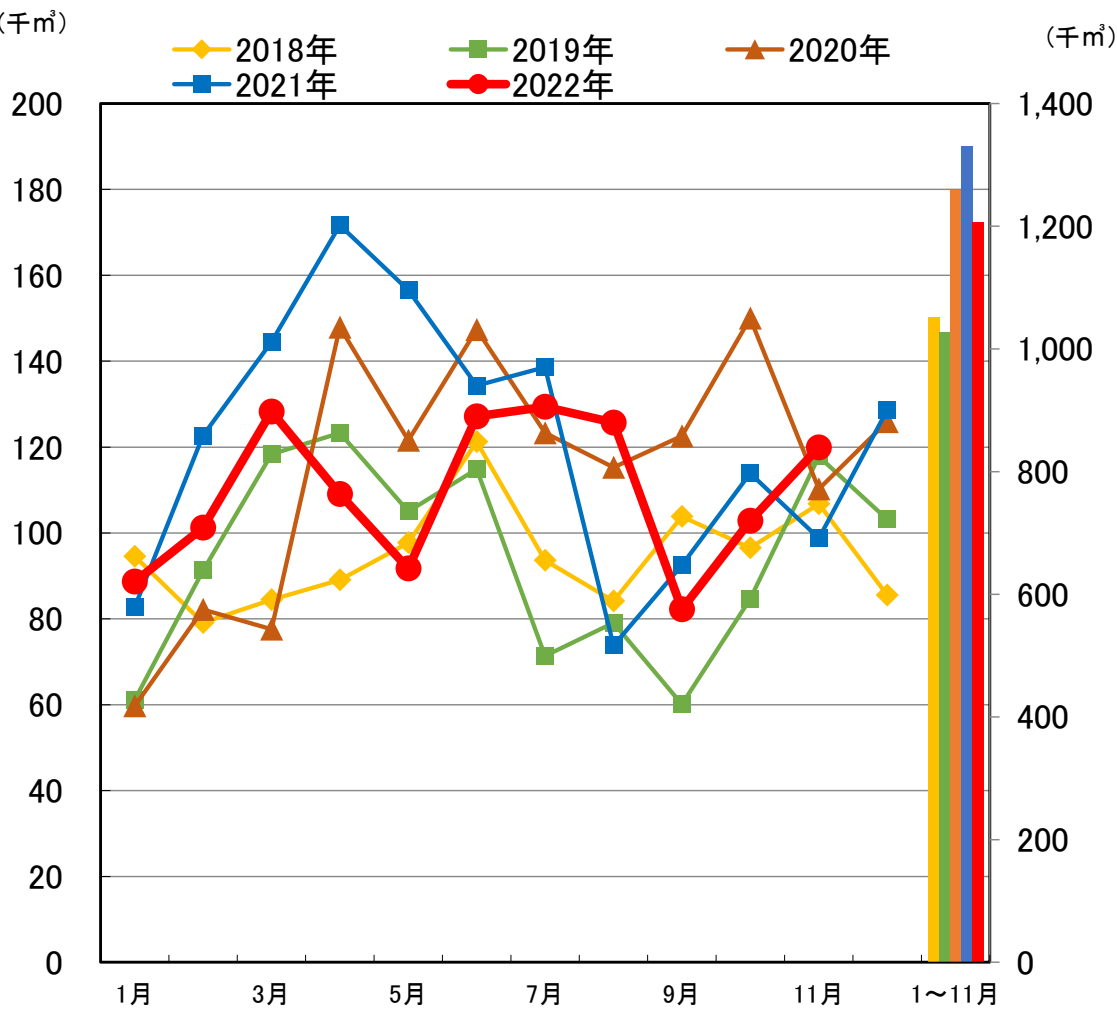


資料：国土交通省「住宅着工統計」

4 木材輸出货量

- 令和4年11月の輸出货量は丸太120千 m^3 （前年同月比121%）、製材11千 m^3 （前年同月比60%）、合板12千 m^3 （前年同月比102%）となった。

○丸太輸出货量の推移（月別）



資料：財務省易統計
※貿易統計の第4403, 4407, 4412の一部類を集計
※四捨五入により、数値が合わないことがある

○木材輸出货量の状況（累計：主な国別・品目別）

輸出先	単月 11月			累計 1~11月		
	主要品目内訳(千m3) 前年比(%)			主要品目内訳(千m3) 前年比(%)		
	丸太	製材	合板	丸太	製材	合板
中国	106 123%	5 84%	0 28%	1,021 92%	61 120%	5 65%
韓国	8 202%	1 100%	0 0%	105 92%	8 80%	0 51%
台湾	6 69%	1 100%	0 —	71 85%	13 103%	0 0%
米国	0 —	2 58%	0 —	0 —	36 65%	0 114%
フィリピン	0 —	2 27%	11 109%	0 —	43 85%	111 94%
総計	120 121%	11 60%	12 102%	1,206 91%	166 88%	117 91%

○税関ごとの丸太輸出货量

税関名	管轄※	合計(千 m^3) 1~11月	比率 1~11月
函館税関	北海道,青森,岩手,秋田	108.8	9.0%
東京税関	山形,群馬,埼玉,千葉,東京,新潟,山梨	7.3	0.6%
横浜税関	宮城,福島,茨城,栃木,千葉,神奈川	8.9	0.7%
名古屋税関	長野,岐阜,静岡,愛知,三重	17.7	1.5%
神戸税関	兵庫,鳥取,島根,岡山,広島,徳島,香川,愛媛,高知	16.6	1.4%
大阪税関	大阪,京都,和歌山,奈良,滋賀,福井,石川,富山	30.0	2.5%
門司税関	山口,福岡,佐賀,長崎,大分,宮崎	349.4	29.0%
長崎税関	福岡,佐賀,長崎,熊本,鹿児島	667.6	55.3%
沖縄地区税関	沖縄	0.0	0.0%

※木材の集荷範囲とは対応していない